

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和3・4年度 第12回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和4年12月20日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	青山 明子	大場 貴弘	宮嶋 祐紀子
	相澤 あゆみ	小松代 菜央	新田 美和	橋本 朋子
	区事務局：土岐、西澤、親跡、木村、藤崎			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 ・前回回収分ご意見カードについて ・運営会議の報告 こども部会について→検討中 ・日付変更 2月7日作業部会→専門部会(最終まとめ)に変更 2月21日専門部会→中止 <p>(2) 地域課題の検討</p> <p>1) 「障がい特性の理解」のまとめ</p> <p>2) 「その人自身の理解」に向けた方法の抽出</p> <p><u>Aグループ</u></p> <p>◎日常に溶け込む活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街で施設の作品の展示、販売など ・学校→グレーラインの人達の支援、どう理解啓発していくか ・施設の会議室を地域の人に貸し出す ・児童館、教育センター、子育てコミュニティなど →成人・高齢者に繋がることで、親亡きあとの支援にもつなげる ・マンションの自治会活動に参加し、管理人等障がいをもつその人自身を気遣ってくれるような人に向けた情報提供 ・民生委員の会合や町会の活動(お祭り、歳末、清掃など)に参加 →町会長や民生委員に知ってもらう ・町会から就労継続支援B型作業所に仕事をもらうのはどうか →支援者側からも町会等へアプローチしていく <p>◎目をかけてくれる人、見守ってくれる人など、そういう気遣いを持ってくれる人をつくっていく</p> <p><u>Bグループ</u></p> <p>◎接する機会、関わるきっかけをつくる(共通点を見出す視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会や地域のイベントに参加 ・ボランティアとして交流できるイベントに参加する →高校生が30~40名程度参加してイベントがあった ・近隣への日々の挨拶 →「すみません」より「ありがとうございます」と言うようにする ・通院時などに付添者が人となりを説明 ・支援者の説明を聞くのも大事だと思うが、声掛けしていく事も大事 →話しかけていいか迷う事もある ・通所施設の『園だより』を地域の掲示板で公開、近隣への配布もしている園がある(顔出しあり、活動報告や成人報告、職員紹介も) →親近感がわく一方、学校やデイサービスでは個人情報の課題もある 			

- ・本人の語りの機会をつくる
 - ・マンガや映画の紹介、賢い SNS の活用
→専門性よりもっと身近に引き寄せられる題材で理解啓発を行う
 - ・学校などで、動画で生活の様子を紹介
→堅苦しくなく、子供達が楽しく見られるもの
→実際に動画を利用した理解啓発がある
- ◎「同じ」「共通点」を見出す→「身近に」親近感を持ってもらう

全体

- ・地域部会の課題まとめを行政に提出し、推進計画などの参考にしてもらうのはどうか
- ・小中学校で、理解啓発に向けたポスター作り等を協力してもらうのはどうか
→既に事例はある（主に人権啓発ポスター）。例えば、法務省が行っている社会を明るくする運動の一環としてのポスター募集や、スクールバスに色々な学校の子どもたちの作品をラッピングする、ラッピングバスの運行など
→東急電鉄等とタイアップし、学校へポスター募集などを提案することができないか（子供たちに発想を積極的に取り入れる）
- ・学生に自立支援協議会に参加してもらうのはどうか
(つばさ総合高校福祉部・東邦大看護学部など)
- ・専門性よりもっとキャッチーな方向へ、今の子どもや若者のアンテナに響かせたい。
→自立支援協議会は、それぞれの専門性を持った集団であるが、このアンテナに響かせる、引っかかる視点を持ち、働きかけることも協議会の役割かもしれない。
例えば、今の子どもや若者に人気があり、障がいのある方を主人公にした作品を紹介する。

2 その他

連絡事項

- ・前回の議事録確認のお願い
- ・守る会からチラシ提供

次回

令和5年1月10日（火）作業部会
 令和5年1月24日（火）専門部会
 令和5年2月7日（火）専門部会(最終まとめ)

以上